

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平6-17725

(43)公開日 平成6年(1994)3月8日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 F 13/15		7603-4C	A 6 1 F 13/ 18	3 8 3

審査請求 有 請求項の数1(全 2 頁)

(21)出願番号 実願平4-25100

(22)出願日 平成4年(1992)3月5日

(71)出願人 591020984

池田 豊子

宮崎県宮崎市花ヶ島町瀬々町1256番地1

佐藤マンション109号

(72)考案者 池田 豊子

宮崎県宮崎市花ヶ島町瀬々町1256番地1

佐藤マンション109号

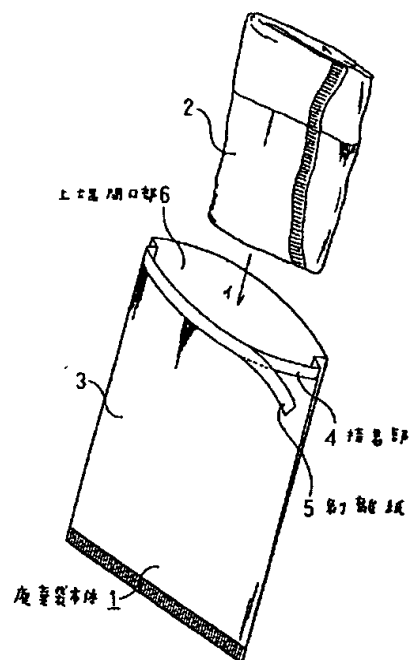
(74)代理人 弁理士 衛藤 彰

(54)【考案の名称】 生理用ナプキンの廃棄袋

(57)【要約】

【目的】 トイレ使用者及びトイレ清掃者に不快感を与えることのない生理用ナプキンの廃棄袋を提供する。

【構成】 廃棄袋本体1を生理用ナプキン2よりも大きい縦長の長方形状に形成する。廃棄袋本体1の表面3に、その上端縁に沿って帯状の接着部4を設ける。使用前においては、接着部4を剥離紙5によって被覆しておく。廃棄袋本体1の裏面に被接着部を設ける。



1

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 不透明な気密素材で形成され、上端が開口された廃棄袋本体と、該廃棄袋本体の上端開口部を密閉可能な密閉手段とからなる生理用ナプキンの廃棄袋。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案に係る生理用ナプキンの廃棄袋の斜視図である。

【図2】 本考案に係る生理用ナプキンの廃棄袋の使用法を示す平面図である。

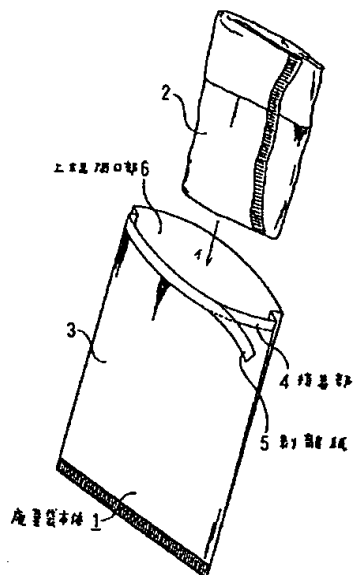
【図3】 本考案に係る生理用ナプキンの廃棄袋の他の実*10

* 施例を示す斜視図である。

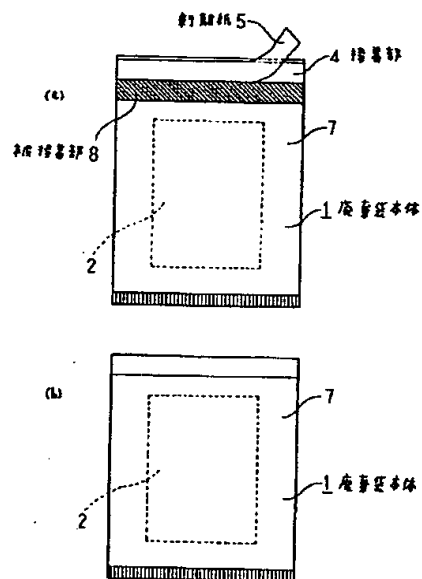
【符号の説明】

- 1 廃棄袋本体
- 4 接着部
- 5 剥離紙
- 6 上端開口部
- 9 廃棄袋本体
- 10 上端開口部
- 11 接着部
- 12 剥離紙

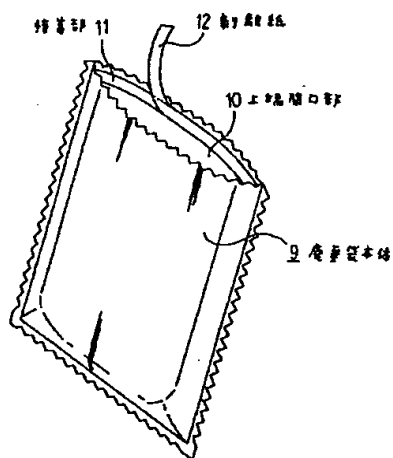
【図1】



【図2】



【図3】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、使用後の生理用ナプキンを廃棄する際に使用される生理用ナプキンの廃棄袋に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

通常、家庭のトイレや公衆トイレには三角コーナーが設置されており、この三角コーナーにはトイレットペーパー以外の水に溶けない物を廃棄するようにされている。使用後の生理用ナプキンについても同様であり、従来、この使用後の生理用ナプキンは、トイレットペーパー等の紙片に包んで前記三角コーナーに廃棄されている。

【0003】**【発明が解決しようとする課題】**

しかしながら、使用後の生理用ナプキンをこのような状態で廃棄していたのでは、この使用後の生理用ナプキンを包んでいるトイレットペーパー等の紙片が三角コーナーの中で開くこともあり、他のトイレ使用者が三角コーナーの蓋を開けた場合に、経血の付着した生理用ナプキンが見え、しかもその臭いが外部に漏れてしまうことになるので、他のトイレ使用者に不快感を与えるという問題点がある。また、三角コーナーに廃棄された生理用ナプキンは、トイレ清掃者によって一般のゴミと共に別の場所に廃棄されることになるが、その場合には、使用後の生理用ナプキンを他の袋等で密封する作業が必要となり、トイレ清掃者にも不快感を与えるという問題点がある。

本考案は、従来技術における上記のような問題点に鑑み、トイレ使用者及びトイレ清掃者に不快感を与えることのない生理用ナプキンの廃棄袋を提供することを目的とするものである。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

このため本考案では、生理用ナプキンの廃棄袋を、不透明な気密素材で形成さ

れ、上端が開口された廃棄袋本体と、該廃棄袋本体の上端開口部を密閉可能な密閉手段とにより構成するようにしたものである。

【0005】

【実施例】

以下、本考案の実施例を図面に基づいて説明する。

図1は本考案に係る生理用ナプキンの廃棄袋を示す斜視図、図2はその使用方法を示す平面図、図3は本考案に係る生理用ナプキンの他の実施例を示す斜視図である。

【0006】

図1に示すように、廃棄袋本体1は、生理用ナプキン2よりも大きい縦長の長方形に形成されている。この廃棄袋本体1の表面3には、その上端縁に沿って接着剤等が塗布された帯状の接着部4が設けられている。尚、廃棄袋本体1を使用する前においては、該接着部4は剥離紙5によって被覆された状態にされている。また、図2(a)に示すように、前記廃棄袋本体1には、その裏面7に被接着部8が設けられており、該被接着部8と前記接着部4とによって廃棄袋本体1の上端開口部6を密閉することができるようになっている。ここで、廃棄袋本体1は、不透明な気密素材であるアルミ箔で作られている。尚、前記被接着部8にはつや消しが施されており、これにより前記接着部4との接着が容易となるようにされている。

【0007】

次に、上記のように構成された生理用ナプキンの廃棄袋の使用方法について説明する。

まず、図1に示すように、使用後の生理用ナプキン2をそのままの状態に廃棄袋本体1の上端開口部6から収納する(矢印イ)。次いで、前記廃棄袋本体1の上端開口部6を閉じた状態で、廃棄袋本体1の上端部を接着部4の下辺に沿って図1の裏側に折り曲げる。すると、接着部4は廃棄袋本体1の裏面7側に位置した状態となる(図2(a))。次いで、接着部4を被覆している剥離紙5を剥ぎ取り、廃棄袋本体1の上端部を図2(a)の状態からさらに裏面7側に折り曲げて接着部4を被接着部8に接着させる(図2(b))。これにより、廃棄袋本体

1の上端開口部6は完全に密閉される。このようにして廃棄袋本体1の上端開口部6を密閉したら、廃棄袋本体1をトイレに設置された三角コーナー（図示せず）に廃棄する。このように、使用後の生理用ナプキン2をアルミ箔で作られた廃棄袋本体1に収納し、かつ、廃棄袋本体1の上端開口部6を密閉した状態で三角コーナーの中に廃棄するようにしたので、他のトイレ使用者が三角コーナーの蓋を開けたとしても、経血の付着した生理用ナプキン2が見えることはなく、しかもその臭いが外部に漏れることもない。従って、他のトイレ使用者に不快感を与えることがない。また、三角コーナーに廃棄された生理用ナプキンは、トイレ清掃者によって一般のゴミと共に別の場所に廃棄されるが、その場合には、従来のように使用後の生理用ナプキンを他の袋等で密封する必要はないので、トイレ清掃者に不快感を与えることもない。さらに、一般家庭においては、使用後の生理用ナプキンを洗面所のゴミ箱等に廃棄することができるようになるので、三角コーナーが不要となり、その結果、家族への気づかいもなくなる。

【0008】

尚、上記実施例においては、廃棄袋本体1の素材としてアルミ箔を使用しているが、必ずしもこの素材に限定されるものではなく、不透明でかつ気密性を有していさえすれば、例えば防水加工紙等の素材を使用することもできる。また、上記実施例においては、接着部4を廃棄袋本体1の表面3の上端縁に沿って設け、廃棄袋本体1の上端部を裏面7側に二重に折り曲げて被接着部8に接着させるようにしているが、図3に示すように、廃棄袋本体9の上端開口部10の内側に接着部11を設け、剥離紙12を剥がしてそのまま接着する構成とすることもできる。さらに、密閉手段としては、このような接着部4（あるいは11）を設ける構成だけに限定されるものではなく、他の公知手段を採用してもよい。

【0009】

【考案の効果】

以上のように本考案では、生理用ナプキンの廃棄袋を、不透明な気密素材で形成され、上端が開口された廃棄袋本体と、該廃棄袋本体の上端開口部を密閉可能な密閉手段とにより構成したことにより、使用後の生理用ナプキンを廃棄袋本体に収納し、かつ廃棄袋本体の上端開口部を密閉して三角コーナーに廃棄すれば、

他のトイレ使用者が三角コーナーの蓋を開けたとしても、経血の付着した生理用ナプキンが見えることはなく、しかもその臭いが外部に漏れることもないので、他のトイレ使用者に不快感を与えることはないというすぐれた効果がある。また、同じ理由により、トイレ清掃者は、従来のように使用後の生理用ナプキンを他の袋等で密封する必要はないので、トイレ清掃者にも不快感を与えることはないというすぐれた効果がある。さらに、同じ理由により、一般家庭においては、使用後の生理用ナプキンを洗面所のゴミ箱等に廃棄することができるようになるので、三角コーナーが不要となり、その結果、家族への気づかいもなくなる。